

しらいしゆうじくんは、いま6歳。幼稚園を卒業して、小学校に入ったばかりです。幼稚園のなかよし4人とはちがう組になりました。ゆうじくんは1年3組、他のみんなもべつべつの組です。

小学校が幼稚園といちばんちがうこと。それは、先生が授業をしているときに、ずっとすわって、先生の話を書きくことです。

だけど、ゆうじくんは、外で音がするとついそっちを見て、ついでに青い空を見て、もひとつついでに、木のはっぱがゆれているのを見て、気がつくとき先生の話を書き、きいていないことが、ときどきありました。しまったーとおもったときは、もうおそいんです。

……どうしようかなあ。

やすみ時間になり、となりの女の子の名札を見ました。「とよおかさきこ」とかいてあります。ちょっとはずかしいかなとおもいつつ、とよおかさん、と声をかけました。そうして、先生がなんていったか、きいてみました。とよおかさんは、ちゃんときいてなさいよと、おかあさんみたいな顔をしながら、おしえてくれました。すると、うしろにいた男の子のさかたくんが「え、ぼく、まちがってきいてたのかな」とききなおしてきました。これがきっかけで、これから友だちになる人たちと、はじめて話をしたのでした。

ぼんやりして、ときどき先生の話をかかなくなるゆうじくんですが、きいていたときはちゃんとおぼえています。ほかの子がこまっっていて、自分がおぼえているときは、ゆうじくんがたすけてあげました。そんなふうにして、まわりの席の子とたすけあいながら、小学校でのくらしがはじまりました。

ゆうじくんは、小学校に入ってから、みんなにはなしていないことがあります。

ネコのぬいぐるみと、まいばんねていることです。

なんでそんなにネコのぬいぐるみがだいじなのかって？

そりゃあだいじです。

4歳の誕生日に、おばあちゃんにもらった、白いふわふわのネコ。

ほんとは、ネコをかってみたいけど、それはぜったいダメといわれました。マシオンではペットをかつちやいけないんです。それに、もしもペットをかうことができるところであったとしても、えさをやったり、トイレのしつけをしたり、とってみたいへんで、ゆうじくんひとりじゃできないからといって、ゆるしてくれません。

そんなとき、おばあちゃんがくれた誕生日のプレゼントをあけると、ぬいぐる

みのネコが入っていたのでした。

うれしくて、その日から友達ちになりました。

名前もつけました。カンジといいます。いつもいっしょに、ねています。はじめのころは、よくいっしょに外へ出かけていました。だけど、おかあさんに「いっしょにねるなら、外にもっていかないで」とおこられました。うちのなかでカンジとあそんでいると、おとうさんに「男の子は外で元氣よくあそんできなさい」といわれました。カンジはおるすばんをすることになりました。

でも、へいきでした。なぜかといえば、カンジとは、ゆめでいっしょにあそべるからなんです。

ゆめのなかのカンジは、タオルみたいにふわふわじゃなくて、まっしろでつやつやした毛につつまれています。お日さまにあたると、ぱあっとまわりがかがや

いて、それはそれはすばらしいんです。

そのときは、ゆうじくんもいっしょにネコになります。からだも足も、人間よりはるかにかるいんです。走って、へいにジャンプして、木にとびうつって、またへいの上をあるいて、ふたりの庭へとむかいます。みどりの池がお日さまにひかって、草のにおいがして、土がやわらかくて、とってもきもちのいいところなんです。そこで、草をゆらゆらうごかしてあそんだり、木の間ににごっこをしたり、きもちいい砂のうえでおしっこしたりしてから、いっしょにねむります。

ねむるときは、からだが大らかなカンジに、ゆうじくんがよりかかります。つやつやしてやわらかい毛が、ゆうじくんをふくらつっつんでくれます。あったかくて、すごくあんしんします。

そこからさきは、いつもうまくおぼえていません。目がさめると、いつものようにおとうさんとおかあさんといっしょに、ならんでねています。

ゆうじくんは、どっちがゆめで、どっちがほんとうか、ときどきわからなくなります。おとうさんにはなしたら、子どもころはそういうゆめをみるもんだ、まだ赤ちゃんなみだなといわれました。おかあさんは、そんなゆめは見たことがないといっていました。

幼稚園の年少組のころは、おとうさんもおかあさんも、ちゃんとゆめの話をきいてくれました。でも、毎日カンジの話をしているうちに、だんだんきいてくれなくなってきたようにかんじます。

それに、年長組になると、あんまりなかのよくない子が、ゆうじくんをからかうようになってきました。

「女の子とばかりあそんでる」

「男のくせに、ぬいぐるみをだいてねてる」

「ネ「おや」」

そういつて、へんだ、へんだと、さわぎます。なかよしの友だちは、みんな気にしないでくれます。ゆうじくんも、さわぐ子たちとケンカをしたりはしません。

ただ、おとうさんに「ゆめのことばかりかんがえてないで、もっとふつうに男の子ともなかよくしなさい」といわれることがありました。このことが、ゆうじくんはいちばんかなしかったんです。だって、なかよくなった子は、気がついたら女の子がおおかっただけで、男の子だっているんです。どういえば、わかってくれるのか。それで、いっしょうけんめい、友だちの話や、カンジのたのしい話をしてわかってもらおうとすると、よけいにおとうさんは、きげんがわるくなるみたいでした。

小学校に入り、3組の中はしらない子ばかりになりました。ゆうじくんは、ほんとのなかよしができるまでは、しばらくだまっていようと、心にきめていたの

でした。





幼稚園ようちえんのころのなかよしとは、気がつくと、あんまりあそばなくなっていました。

小学校しょうがっこうのあたらしい友達ともと、あそぶこともあります。けれど、ピアノとか、お習字しゅうじとか、水泳すいえいとか、剣道けんどうとか、英語えいごとか、みんないろいろいそがしいみたいです。

じつは、ゆうじくんは、ひとりであそぶこともけっこうすきなのです。

すんでいるマンションのそばで、地面じめんを見て虫むしや花はなをながめたり、本ほんをもってきてながめたりすることも、ありました。

さくらも、やまぎくも、すっかりはっぱになって、サツキが赤あかい花はなをつけていました。友達ともたちはみんな、おけいこの日ひ。ゆうじくんはひとりで、いつものようにマンションのちかくにいました。ありんこを見みつけて、しばらくながめてい